



三条北ロータリークラブ週報



例会日 2011. 6. 7 累計 No.1177 当年 No.43



例会日:火曜日 12:30 ~ 13:30

例会場:三条ロイヤルホテル TEL 34-8111 FAX 34-8114

事務局:三条市本町 3-5-25 三条ロイヤルホテル内

TEL 0256-35-7160 FAX 0256-35-7488

HP:<http://www.sanjo-nrc.org> AD:north@sanjo-nrc.org

発行:三条北ロータリークラブ 会報委員会

国際ロータリー会長:レイ・クレンギンスミス
地区ガバナー:東山昕也(高田RC)
三条北RC会長:小林繁男
三条北RC幹事:西村 護
三条北RCSAA:岡田大介

■出席状況

- ・本日の出席:68名中36名
- ・先々週の出席率:69名中59名
85. 51% (前年同期88. 73%)

■本日の行事:卓話

「苦勞知らずと言われ続けて」

■先週のメイクアップ:(敬称略)

- 6月3日新潟東RCへ 中條耕二
- 4日京都紫野RC
35周年記念式典 山本 賢
- 6日地区諮問委員会 中條耕二
- 6日市内4RC会長幹事会
星野義男、石川一昭
- 7日次年度打合せ 星野義男
石川一昭、山中 正
外山裕一、石黒隆夫

■本日のメニュー: 825kcal

- ふきと鳥そぼろの炒め煮 137
- 御作里 三種盛り 72
- 鯖の味噌煮 216
- かんぱち塩焼き 81
- 御飯 168
- 味噌汁・漬け物 121
- グレープフルーツ 30



会長挨拶:小林繁男会長



今日は、4日・5日に行われました凧(いか)合戦に参加しましたのでお話しさせていただきます。結果は今日の三条新聞に出ていましたがブービーでした。私達はテントに入ると一杯飲んでからやるのですが(それが楽しみで参加しているようなものです)優勝したチームはやはり違います。努力しているようです。私達とは違うということを感じました。米山さんから陣中見舞いを頂きありがとうございます。頂いたビールを飲んだことが、勝敗の分かれ目になった様です。

本日は、新会員の羽賀一真さんから卓話をさせていただきますが、私よりもロータリーの事を良く知っているのではと思います。皆さんよくご存じの会長もされました羽賀一夫さんの息子さんです。夏期交換学生、ライライ研修生として参加もしていただいた様です。是非お友達も北RCに誘っていただきたいと思ひます。よろしくお祈いします。

幹事報告:西村 護幹事



- ・石本ガバナーエレクト、新世代奉仕委員長より
2011-2012 第 2560 地区インターアクト
年次大会開催について

期日 2011年7月17日~18日

会場 五泉市チャレンジランド杉川

*未提唱クラブについても1名分の登録料をご協力お願いします。

- ・三条市青少年健全育成市民大会の協力依頼について
日時 2011年7月10日(日) 13:00~16:30
会場 中央公民館大ホール
- ・育子からの手紙上映委員会より 協賛の御礼&上映会のご案内
日時 2011年7月9日(土) ①10:00~、②14:00~
会場 三条市中央公民館 鑑賞券 1,000円
*鑑賞券が必要な方は事務局までお願いします。
- ・三条市吹奏楽団より 第35回定期演奏会のご案内
日時 平成23年6月19日(日) 13:15~
会場 加茂市文化会館 大ホール
- ・次年度山田AGより 第4分区会長幹事会のご案内
日時 6月18日(土) 17:30~
会場 太田家(見附市)

理事会報告：第12回

開催日：平成23年6月7日（火） 11:30～12:30

開催場所三条ロイヤルホテル 出席数：13/14（内委任状2）

出席者：小林繁男、星野義男、斎藤 正、西村 護、山中 正、佐藤義英、岡田大介、石川勝行
渋谷義徳、金子太一郎、澁岡 茂、米山忠俊、石川一昭

- 協議事項：1. 新会員候補の件 承認
2. 退会届の件 承認（堀田正弘会員 5月末日）
3. 会長幹事慰労会の件 承認
6/28（火）18:30点鐘 於：饞心亭 おゝ乃
4. 休会届けの件 承認（梨木建夫会員病気療養のため）

委員会報告：次年度R財団、米山奨学委員会

お手元に寄附の問い合わせを配布しました。次年度も今年度同様、皆様のご協力をお願いします。詳細は事務局へお訊ね下さい。又、提出のない方は今年度と同様とさせていただきます。



■ロータリー財団BOX：7日現在累計276,000円

■米山奨学BOX：7日現在累計388,000円

■ニコニコBOX：7日現在累計934,200円

- 星野 義男君 羽賀一真さんの卓話に感謝して!!
米山 忠俊君 次年度米山奨学にご協力をお願い致します
岡田 健君 次年度は私がニコニコBOX担当ですよろしく願いいたします。
丸山 勝君 BOXに協力
下村 啓治君 〃
丸山 達夫君 〃
本間建雄美君 小林年度もあと僅か、ニコニコBOXをよろしく。



本日の行事：卓話「苦勞知らずと言われ続けて」 羽賀一真会員



2月から入会させていただきました、羽賀一真と申します。

11年前の2000年に、当時流行った？ミレニアム結婚し、その後、現在、小1の娘、幼稚園の年中の息子、生後7ヶ月の娘、と3人の子供に恵まれています。趣味は「一応」ゴルフということにさせていただきますが、ハンディ20程度と、いくらやっても上手くなりません。ですので、父を知る人と同伴すると、「お父さん上手なのにね〜」とからかわれます。

その父、羽賀一夫は、1986年12月2日に三条北ロータリークラブ入会ということは、いわゆるチャーターメンバーということになりまして、確か第8代目？でしょうか？クラブ会長も務めさせていただいたと思います。

その父の影響もあり、今から19年前になりますが、私が大学4年の夏休み、国際ロータリーの活動の一環として、ドイツ人交換学生の「クリスチャン・ヤンセン君」のホームステイ受け入れをいたしました。その時、クリスチャン君の妹だったと思いますが、三之町の山本先生がホームステイ受け入れされたと思いますので、なつかしいかと思えます。

その後の私自身もドイツへ交換学生として1ヶ月間ホームステイに行きました。

それからまた、今から13年前ですが、今度はまた別のドイツ人交換学生の「イエンス君」のホームステイを受け入れました。その時は、先にコンピュータシステムの落合さんが受け入れて、その後うちで受け入れたと思いますので、これもなつかしいかと思えます。今度は、私はもう社会人でしたので、私がドイツに行くこともなかったのですが、とにかくドイツ語なんかできない私は、下手な英語でなんとか会話しました。ドイツ人の人は基本的にドイツ語しか話さないの

ですが、交換留学するくらいの学生さんやご家族だと、英語もできるんですね。他にライラ研修ということで、群馬に1泊2日で合宿研修に参加させていただいたこともありました。(他にも、研修ではないのですが、有志でフィリピンのセブ島、グアム、シンガポールなどの旅行に参加させていただいたりして、この中にもご一緒させていただいたりしたかたが多くいらっしゃると思いますので、なつかしいです)

研修の都度、研修終了後に、この場所(三条ロイヤルホテルのロータリー例会場)で卓話をさせられましたので、入会してまだ4ヶ月の私ですが、卓話はもう、入会の日の短いあいさつも入ると、今日で5回目になります。

人前でしゃべるといのは非常に緊張するのですが、これからこのように人前でしゃべらなければならないことも多いと思うので、度胸をつけるには非常にいい機会だと思いますので、このような機会を作ってください。ロータリーに感謝いたします。

新会員の卓話の恒例のテーマはだいたい会社紹介や仕事に関する事ということですので、ここで本題に入らせていただきます。

うちの会社のなりたちですが、私の父は、幼い頃に父親(私の祖父)を亡くし、父の母(私の祖母)は再婚したのですが、その再婚相手である養父と私の父とは非常に相性が悪く、水と油だったようです。実家の家業はモーター屋を営んでおり、今でも父の弟(私の叔父)がその家業を継いでいるようですが、当時の父は、手巻きモーター業の将来性にはすでに限界を感じていたようです。当時、世に出たばかりのカラーテレビは今でいう車1台ほど高価なものでしたので、父は自分の電気の技術を生かし、カラーテレビの出張修理業がかなりいい仕事だったようです。その間にも、父は「自動モーター巻き機」を自作して効率化を図ったようですが、養父からは「モーターというのは手巻きでなければお客は喜ばないのに、一夫はバカなものばかり作って」と常になじられていたそうです。(その機械は今でも養父の家業でどうやら重宝されているようですが)そうしているうちに父は、天井走行クレーンのメーカーから依頼のあった設置工事点検修理業に着目しました。それをその養父に強く提案したのですが、「家業だけやっておればいいのに、絵空事ばかり言いおって」と相手にされなかったようです。

父も短気な性格ですので、2歳の私と、これから生まれる私の妹と、身重の母を連れて、ついに父の実家を飛び出し、母の実家に転がり込みました。そのようないきさつの中で父が昭和47年に創業したのが、今の当社の前身である「ホイストクレーン」です。

天井走行クレーンの点検修理業というのは、メーカーも地方の業務はできないので、お客も困っていました。創業当時から需要は非常に多くあり、日曜祝日無く父は働きまくっていたので、私と妹と母は、日曜日に父が作業している現場まで散歩した覚えがあります。

非常に多い需要に応えるため、父は組織化を図るため、社員を雇い入れ、個人事業も法人化し、本格稼働し始めました。最初の社員は、私の母の兄(私の伯父)です。

最初こそはうまくいっていたのですが、父は自分1人だけでやっていた時とは違う苦勞にさらされることになりました。母の兄は、父の義兄になりますが、経営方針の違いによって、陰悪な仲間となり、せつかく軌道に乗りかけた社業も、その義兄の叛乱によって競合他社を作られ、うちの会社の社員やお客を食い荒らしていきました。(その会社は今でも石上大橋の下にあります)

そのあとも、父のアイデアについて来れない社員が次々にまた他の競合他社を作っていました。例えば「ポケットベル」が世の中に出たばかりの時代ですが、緊急修理発生時に即連絡できるポケットベルという新しい連絡手段に父は着目し、会社の連絡手段に取り入れたのですが、当時の社員から「そんな束縛する社長なんかについていけない」とまた叛乱を起こし、また別の競合他社を作り、あげく、その「便利な連絡手段のポケットベル」を、こともあろうにマネして最大限駆使しているようです。

私も子供の頃、時々、親に連れられて夕食を外で食べに行った覚えがありますが、その先でよく目撃したのが、飲み屋の駐車場に、なぜかうちの会社の社員の作業車と、競合他社の社員の作業車が隣り合わせで停められていて、どう見ても「密会(顧客情報などの漏えいなど)」をしていました。父と母はその自社の社員の車のナンバーを控えたりしていましたが、獅子身中の虫とはいえ有力な技術者を辞めさせると代わりがないため、父はどうすることもできませんでした。私もそんな父を見て育ちました。

私が大学に行っていた頃、平成2年ですが、餞心亭おおのさんから「羽賀さんのところは荷物用の昇降機をやっているなら、乗用のエレベーターもやって欲しい」と言われたのがきっかけとなり、それまで別事業を営んでうまくいかず休眠していた、(株)羽賀を社名変更し、(株)ハインとし、

エレベーター事業部を開設しました。

このエレベーターの点検修理がクレーン以上に需要があり、業績は順調に伸びていったのですが、ここでまたもや苦労したのが「人」です。

営業マンから事務員から技術者まで統制が取れず、例えば当時の筆頭技術者は、エレベーターですから徹夜で故障を修理しなければいけないのですが、徹夜作業が続くと1ヶ月以上も無断欠勤し、パチンコ屋で発見され、サラ金破産寸前のところを私の父が肩代わりして助けてやったり、そんな社員ばかりでした。

私は大学4年を卒業する時、家業を継ぐための修行として、都内の外資系エレベーターメーカーに就職内定をもらっていました。業種としては将来性が見込まれていたからですが、肝心の自分の会社の統制が崩壊していたため、父から「早く帰ってきてくれ」と言われ、大事な内定を辞退して、新卒で父の会社に入社することになりました。

そこで私を待っていたのが「社会を知らない苦労知らずのボンボンが」という社内社外からの揶揄の言葉です。私も好きで内定を蹴って実家に戻ったわけではないのですが、「苦労知らずが」となじられ続けたこと自体が、一番の苦労でした。

この「技術職」という業種の宿命なのですが、苦労して育てた技術者は、自分の腕前を過信し、勤めている頃は自分は社長より偉いと錯覚し、私ばかりか当時の社長である父をも見くびっており、あげくはまたもや叛乱を起こし競合他社を作るのです。まだ20歳代だった私は、技術や営業力を必死に身につけたものでした。そうでないとこちらが食われてしまうからです。

私は35歳の時に社長職を継いだのですが、それからほぼ直後に発生したのが、お恥ずかしい話ですが、当社の不祥事発覚（受験資格経験年数詐称）です。もちろん当社は、社会的に許されないことをしており、会社の監督責任は決して免れはしないのですが、おかげさまで収まりつつある今となっては、ご理解いただける同じお立場の経営者の先輩方の前で少しだけ弁明させていただくとしたら、実際としてはその資格年数の認定権限を持った元幹部社員（競合他社に引き抜かれていった）自身が自分でやってたいいわゆる不正行為を、会社がやったこととして、当社にダメージを与える目的をもって、あろうことか自分から国土交通省に告発し、それが全国的に報道され、私が社長職を継いだばかりの会社は、手痛い洗礼を受けることになったのです。

その年の「今年の漢字」は「偽」でした。不謹慎ながら語弊を承知で言わせてもらおうと、これは今思えば、一種の「告発ブーム」だったということを表していると私は思います。最近のように、実害を出した会社は問題になるのは当然ですが（ユッケや東京電力など）、当時は実害が出ていなくても問題を起こした会社は、おもしろおかしく叩かれ、「作られた世論」により実態以上に世間から非難の嵐を受けるような、そんな年でした。

そのため、つぶれなくていい会社がつぶれたり（船場吉兆など）、逆にそれを機に社内体制を一新し、見事に生き残り不死鳥のごとくよみがえった会社（白い恋人、赤福など）もあります。

うちの会社は、その生き残ったほうの会社となりました。どこの競合他社にも負けにくいらい、社員の結束力が固まり、よどんでいた社風は一掃されました。正直に言って、当社も創業当時から泥の中から這い上がったままの悪しき体質が多々ありましたが、それが今ではすべて一掃されたのです。今では素晴らしい幹部や社員に恵まれており、どこよりも「強い会社」になったと自負しております。今となってはその「密告者」に感謝しても、し切れにくいくらいです。

「苦労は買ってでもせよ」などと言う言葉がありますが、そんな綺麗事のような言葉は、本心は誰も思いませんよね。苦労と言うものは誰もができれば避けたいし、いやでも襲い掛かってきます。苦労そのものの遭遇は人知の超えたものですが、その結果、失うもの、得られるものは、経営者の器という人事を尽くすことにあると骨身に染み込みました。

これら程度のことなど、諸先輩方からすれば「苦労」のうちにすら入らないと思います。しかし、まだまだ未熟な私にとっては大変なことでした。また、経営者としての諸先輩方に、「人間での苦労」という点では、少しでも共感されるところがあるかな？と思い、お話をさせていただきました。これからもこの若輩者の私が、どのようなことに遭遇するのか、覚悟を決めて参りたいと思っています！

君が代・奉仕の理想



6月のお祝い紹介



握手タイム



6月4日京都紫野RC35周年記念式典に山本 賢会員が参加されました。いつもながらみち子夫人ご同伴の様です。詳しい報告をいつかお聞きできると思います。





三条北ロータリークラブ会員企業紹介

今回は青柳会員と山崎会員を取材させていただきました。
 そして、そこで分かった 北ロータリーをつなぐ一つの事実……。
 それは企業紹介をお読みいただいた後の編集後記で明らかにされて参ります。
 ～～それでは今週の企業紹介をお読みください。

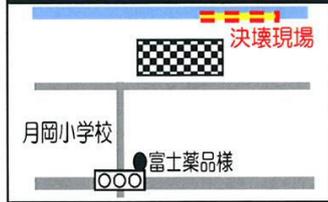


by 会報・広報・資料委員会

■会員事業所紹介 ●青柳康博会員 (米山奨学)



■事業所名	青柳建築
■職種分類	一般建築 総合建設
■住所	〒955-0864 三条市曲刈2-28-73
■TEL.	0256-35-3954
■FAX.	0256-35-3969



👏 こんな仕事をしています

一般住宅の建築請負、設計施工、リフォームと共に三井系、パナソニック等の大手住宅メーカーの請負仕事もしています。
 大手メーカーは品質、精度、価格、納期に大変厳しいものがありますが、敢えて請負、技術、住宅センス、時代感覚そして顧客のニーズの感知と大変勉強しております。自社のノウハウとそれらを組み込み、お客様により良き住まいの提案をしています。



👥 我が社のPRポイント

7年前、五十嵐川決壊の真っ只中で被災しており、何をおいてもお客様の復旧が最優先と社員は自分の家を顧みず全社一丸となって昼夜を問わず、一刻も早くお客様に住まいをと頑張りました。
 その後沢山の新築依頼を頂きました。其の多くのお客様より「水害の際の青柳建築の社員を見ていたので……」との話を頂きました。頂いた評価は「良き社員あったればこそ」でした。



「凄かった」と決壊現場を指差す青柳会員

7.13水害決壊現場と慰霊碑

編集後記



青柳会員の取材にお邪魔してビックリ！
 会社もご自宅も7.13水害の土手決壊現場の目の前でした。当日はロータリーの例会日、しかし事務局から緊急休会の連絡を受け、その直後に土手決壊の瞬間を目撃したそうです。
 その時の感想は「まるで映画の1シーンを見ているようだった」との事、その後あっという間に3mを超す泥水に襲われ、二階へ避難、救命ボートで救出され脱出、大野会員宅へ一時避難、その後ご実家で10日余り過ごされたそうです。
 私(高森)も水害の被災者ですが青柳会員の生々しいお話に当日の恐怖を改めて思い出しました。

続いて…新聞社を取材するという奇妙な感覚で山崎会員を取材させていただきました。

山崎会員の会社はご存じ「三条新聞社」。
今回は写真を中心に新聞ができるまでをご紹介します。

■会員事業所紹介 ●山崎 勲会員 (出席)



■事業所名	株式会社 三条新聞社
■職種分類	新聞発行
■住 所	〒955-0064 三条市横町2-8-24
■TEL.	0256-32-5511
■FAX.	0256-32-5226



社屋全景



記者室①

現在11名の記者の方が仕事をされています。ここで取材された記事が纏められ原稿が出来上がります。当日はみなさんが取材中の為、室内は閑散とした雰囲気ながらビーンと張った空気を感じました。



記者室②

机上のトータンポール

山積みされた取材記録！
「地震が来ると記者は書類の下敷きになる(爆笑)！」と山崎会員は豪快に笑っていました。(´o´)



制作室

ここが三条新聞の頭脳、制作室です。集められた記事や広告原稿をコンピュータで制作、紙面作りを担当しています。「わが社の広告もここで作られているんだなあ～」と感慨深くなりました(笑)。



製版室

記者が記事を書き、制作室で紙面を作り、ここで印刷に回す新聞の版が作られます。



印刷室

さてここが三条新聞の心臓部「印刷室」です。地方の新聞社と同等の一基「1億数千万円」の印刷機械がずら～っと並んでいます。その印刷スピードは毎時55,000部、三条新聞の発行部数が40,000部なので印刷時間は僅か40～45分だそうです。因みに三条新聞の購読先は県央全域(三条、下田、栄、加茂、燕、吉田、弥彦、分水)です

印刷前のロール紙



両面カラー4色刷りができる印刷機



新聞の試し刷り



刷り上がった新聞は50部単位で
仕分けされ各販売店に届けられます。



岩田正巳画伯の絵と共に



最後に新潟県出身の日本画家、
岩田正巳画伯の日展(日本美術展覧会)
入選作品の大作を見せていただき
ました。
「一度賞し出しが決まると全国を
巡り、半年は返ってこない」と
仰っておられました(笑)。

編集後記

さて山崎会員と青柳会員をつなぐ奇妙な関係、その事実とは……

取材時「なぜ7.13水害の時に通常例会が休会になったのでしょうか？偶然なのですか？」と山崎会員にお尋ねしたところ以外な事実が判明いたしました。

山崎会員は仕事柄いち早く「川がおかしい」との情報を入手、「どうも五十嵐川が氾濫しそうだ。こんな日に例会は無理だろう。会長へ連絡して指示を仰いだらどうだろうか」と事務局へ電話されたそうです。そこで会長から緊急休会の決断が下され、各会員へ事務局から連絡が行きました。

もし青柳会員が自宅前で緊急休会の連絡を受けず、そのまま例会に出発していたとすれば車ごと泥水に押し流されていたかも知れません。

山崎会員から発せられた緊急情報と青柳会員の九死に一生を得た経験、これがお二人を結ぶ奇妙な関係でした。

これは青柳会員と山崎会員を同じ日に、そしてこの順番で取材しなければ分らなかった事実です。

今回の取材では東日本大震災の大津波とは規模こそ違え、我が街三条市に大きな爪痕を残した7.13水害を改めて振り返させられた一日でした。